IRPA Bulletin

For RP professionals, by RP Professionals

2021年9月 発行 #31

リトアニア・カンザスの風景 – Andy Karam撮影

本号の内容:

会長のブログ – 2
UNSCEAR第68回年次会合 – 3
若手世代ネットワークのジョイントワークショップ – 6
関連学会プロフィール—リトアニア放射線防護学会 – 8
エジプト放射線防護学会からのアップデート – 11
2022年IRPA北米地域会議 – 13

翻訳:森下祐樹、保田浩志、監修:佐々木道也。
この"IRPA会報"の日本語訳は、IRPAの公式的な翻訳ではありません。そのため、IRPAはその正確性を保証するものではなく、またその解釈や使用がもたらすいかなる結果についても、一切責任を負いません。
Translated by Yuki Morishita and Hiroshi Yasuda, and reviewed by Michiya Sasaki.
This Japanese translation of "IRPA Bulletin" is not an official IRPA translation; hence, IRPA does not guarantee its accuracy and accepts no responsibility for any consequences of its interpretation or use.

IRPA 出版委員会

委員長: Andrew Karam; 会報編集担当: Andrew Karam & Dave Niven; 加盟学会連絡担当: Adelene Gaw; ウェブサイト管理運営担当: Andrew Karam & Chris Malcolmson; ソーシャルメディア対応担当: Sven Nagels & Chris Malcolmson; メディア情報収集担当: Sven Nagels, Young-Khi Lim & Hattori Takatoshi; プロシーディングアドバイザー: Haruyuki Ogino

会長のブログ

DR. BERNARD LE GUEN

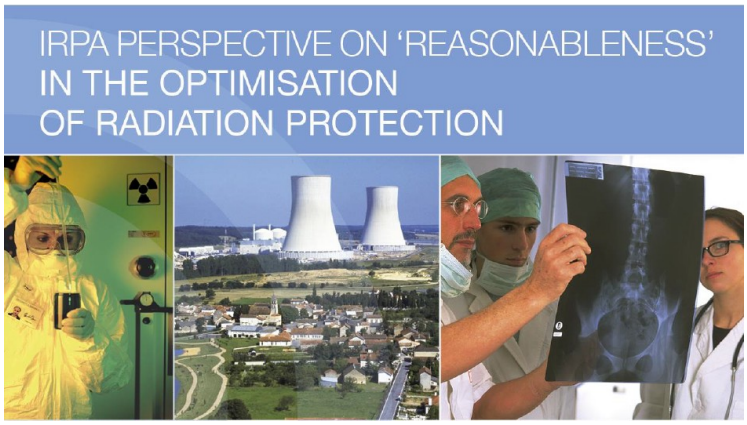
放射線安全に関わることは世界中で起きています – それは私たちの組織の名前によって暗示されています – しかし、私たち自身の国、私たちの州や県、私たちの街、または単に私たちの職場においてさえ、何が起こっているのか知ることは簡単です。そして、私たちは、会報の本号を見て、国連による仕事について読み、エジプトとリトアニアの同僚、北アメリカでこれから開催される地域会議、世界中の若い同僚についての記事を読みます。そして、私たちの職業が本当に世界中に及んでいること—それが必要なこと—を、私たちに思い出させます。

地球上に病院の無い国はありません。そこにいる患者（及びしばしば職員）は診断や治療で使われる電離放射線によって被ばくを受けます。天然資源を探索、抽出、加工している場所ではどこでも放射線源が生じます。私たちのセキュリティシステム（それは一層ユビキタスです）は電離放射線を使用し、それらはいくつかの人間の取組みに不可欠です。加えて、すべての放射線と放射能は自然に存在しており、その一部が防護対策を必要とします。 私たちの職業、私たちの主題、そして私たちが与える影響は、まさしくグローバルなものです。

これはまた、私たちの仕事の範囲が広いことを示しています。医療放射線の安全性だけでも地球上のほぼすべての人の生活に影響を及ぼしており、原子力は継続的な温室効果ガス排出に対する重要な防波堤であり、世界は私たちが発見と回復を促進する資源を必要としています。それだけでなく、私たちが取り組んでいるもの、つまり電離放射線は、大多数の人が恐ろしくてほとんど理解できないと感じるものですが、大工が道具を使って行うのと同じように、私たちは皆それを使って大きく歩みを進めています。

私たちは私たち自身と私たちの職業を過小評価しがちですが、そうすべきではありません。私たちの職業が重要なものであること、そして私たちは成功に向けて一つになる存在であることを理解してもらうために、私は、私たちの仕事の影響を受けている人たち—患者、顧客、ライセンシー、そして他の多くの人—についてあなたに考えてほしいと希望しています。

また、ICRP勧告を目的に適合させるというICRPイニシアチブのおかげで、今後数週間から数ヶ月の間に、明日の放射線防護に備える機会をIRPA関係者で持つ機会があることも述べておきます。 私は、既に提案を出したすべてのIRPA加盟学会に感謝するとともに、あなたとあなたの学会、IRPAは、バーチャルなICRPワークショップにおいてあなたを代表します。



最新のIRPA出版物の1つ - 放射線防護の最適化における「合理性」に関する視点

UNSCEAR第68回年次会合

ADELENE GAW & JULIE BURTT [1]

原子放射線の影響に関する国連科学委員会（UNSCEAR）は、1955年の国連総会によって設立されました[1]。その使命は、電離放射線への曝露レベルとその影響を評価し報告することです[1]。UNSCEARの詳細についてはウェブサイトをご覧ください。.

UNSCEAR事務局は、評価の作成、年次会合の組織化、専門家及び臨時のワーキンググループをサポートし、委員会の審議のための文書の提出及び承認後にはこれらの文書の公表を調整します。また、国連総会で委員会報告書についてプレゼンテーションをする議長のサポートもしています。最新の第68回年次会合中のUNSCEAR事務局のチームメンバーの写真を図1に示します。

図1: UNSCEAR事務局 (左から右へ), Sarah Rowley, Biljana Stajic,Esther Marsha, Susan Habersack, Borislava Batandjieva-Metcalf, Ferid Shannoun, Kristel Aquino, Suzanne Jovanovic, Alex Stanley, Moritz Zimmermann, and online Adelene Gaw and Julie Burtt.

[1] UNSCEAR事務局において派遣国負担で働くカナダのパートタイム専門家

UNSCEAR第68回年次会合

ADELENE GAW & JULIE BURTT [1]

第68回UNSCEAR年次会合は、2021年6月21日から25日まで開催されました。世界的なCOVID-19のパンデミックが続いているため、2年目はバーチャルに開催されました。会合には、UNSCEARの加盟国である27の国、4つのオブザーバー国、12の国際機関から、220人を超える参加者が出席しました。

この年次会合は、UNSCEARの65周年を記念するものでもありました。国連環境計画（Andersen氏）、ウィーンの国連事務局（Wally氏）及び国際原子力機関（グロッシ氏）のハイレベル代表者が祝辞を述べました。これらの挨拶のビデオはウェブサイト [2] で見ることができます。

年次会合の議長はGillian Hirth（オーストラリア）が務めました。Borislava Batandjieva-Metcalf（事務局長）が、2020年11月に開かれた第67回年次会合以降の事務局での作業に関する最新情報について紹介しました。これには、2020年12月に発行された *UNSCEAR 2019年報告書-電離放射線の発生源、影響及びリスク*[3] 及び2021年3月に先行オンライン公開された *UNSCEAR2020 年報告書附属書B、福島第一原子力発電所の事故による放射線被ばくのレベルと影響：2021年3月のUNSCEAR2013報告書以降に発表された情報の意味* [4] を含んでいました。

UNSCEAR事務局は、医療被ばくと生物学的メカニズムに関する、UNSCEAR 2020報告書の附属書Aと附属書Cを発行し、今年後半にこれらの主題に関するトピックウェビナーを開催することを計画しています。

年次会合では、電離放射線による職業被ばくの評価に関する技術的議論も行われ、2022年初頭にその報告書を発行することが委員会によって承認されました。さらに、年次会合では、以下に挙げるUNSCEARによる評価の進捗報告に関する議論がありました；

・放射線治療後の二次的原発がん；
・放射線とがんの疫学研究；
・電離放射線による公の衆被ばく；
・放射線被ばくに関するデータの収集、分析、普及を改善するための委員会の戦略の実施。
・2020年から2024年までの委員会の公開情報とアウトリーチ戦略の実施。

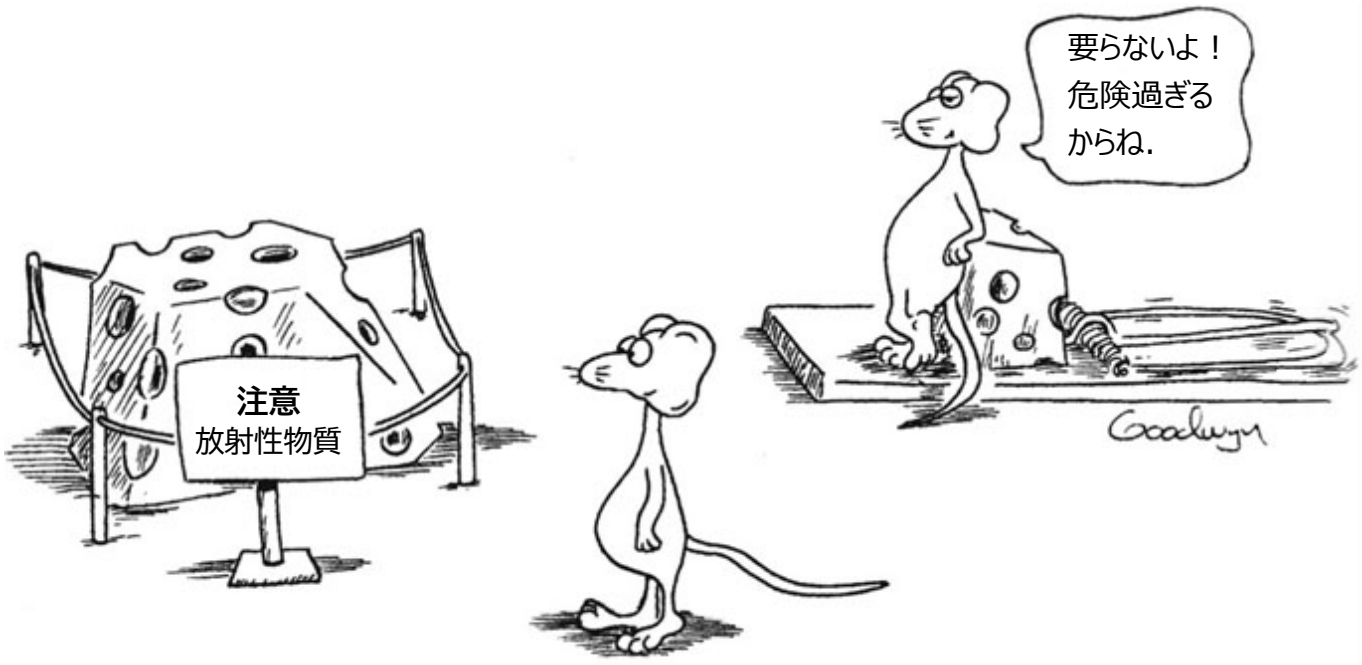
最後に、年次会合では、放射線被ばくによる循環器疾患の評価を含む、今年後半に開始される予定の委員会の将来作業プログラム（2020-2024年）の実施に関して議論が行われました。

年次会合での審議についての詳細を提供する国連総会への報告は、2021年10月にニューヨークで開催される第76回国連総会で発表され、その後UNSCEARのウェブサイト[5]で公開されます。

UNSCEARの第69回会合は、2022年5月9日から13日までの期間、オーストリアのウィーンで開催される予定です。

参考文献:

1. UNSCEAR, About Us (unscear.org).
2. UNSCEAR, 65th-anniversary-remarks (unscear.org).
3. UNSCEAR, UNSCEAR 2019 Report, Sources, Effects and Risk of Ionizing Radiation, 2019 (unscear.org).
4. UNSCEAR, UNSCEAR 2020 Report, Sources, Effects and Risk of Ionizing Radiation, Annex B (Advance Copy): Levels and Effects of Radiation Exposure Due to the Accident at the FukushimaDaiichi Nuclear Power Station: Implications of Information Published since the UNSCEAR 2013 Report, 2020b (unscear.org).
5. UNSCEAR, All General Assembly reports and resolutions relating to UNSCEAR (unscear.org).



「福島第一原発事故に関連する問題を通じた若手専門家の展望」に関するKARP-JHPS-CSRP共同ワークショップの概要

KARP（韓国放射線防護学会）、JHPS（日本保健物理学会）、CSRP（中国放射線防護学会）によるYGN（若年世代ネットワーク）の合同ワークショップが2021年8月27日に開催され、福島第一原発事故に関連した最近の問題が取り上げられました。この合同ワークショップの目的は以下のとおりです：

1. アジア地域における関連学会に属する若者のRP（放射線防護）コミュニティ間の協力を促進する、
2. RP関連の知識と情報を若いRP専門家と共有する、そして
3. 福島第一原発事故に関連する最近のRP問題について話し合う。

3つの学会のIRPA-YGNリーダーシップ委員会メンバーとKARP-YSG（若手科学者グループ）の委員長がこの合同ワークショップのプログラムを組織し、各学会から代表的な若手専門家を招待しました。このワークショップは、KARPサマーワークショップの特別セッションの1つとして開催されました。COVID-19のパンデミックのため、このイベントは（すべての参加者には）オンライン及び（韓国の参加者のみには）オフラインの会議として開催されました。

主催団体の代表であるKARPの会長であるKyo-Youn Kim博士は、YGNの合同ワークショップを祝う歓迎の挨拶をしました。その後、若手専門家（JHPS のHisanori Fukunaga博士、CSRPのJinfeng Li博士、KARPのJai Oan Cho氏）による3つのプレゼンテーションが、KARP-YSG議長のJeongin Kim博士による進行のもとで行われました。Hisanori Fukunaga博士は、福島地域の人々の医療に関して彼の経験を紹介しました。Jinfeng Li博士は、福島で計画されている処理水の排出と、それが住民に与える放射能の影響について発表しました。ワークショップの最後の講演者として、Jai Oan Cho氏は、福島第一原発事故以後も、韓国では原子力エネルギーが一般に受け入れられている状況を紹介しました。

招待講演者とセッション議長

左上から時計回りに：Jai Oan Cho (KARP)、Jinfeng Li (CSRP)、Jeongin Kim (議長)、Hisanori Fukunaga (JHPS)

若手専門家による3件のプレゼンテーションの後、すべての講演者と参加者により提示されたトピックについての議論が行われました。参加者から寄せられた質問と関心は、個人線量評価と個人のリスク評価に伴う不確かさの分析、福島での除染作業員の推定放射線量レベル及び処理水の排出を懸念する一般市民との効果的なリスクコミュニケーションに向けられていました。さらに、居住地域（近隣地域または原子力発電所から遠く離れた地域）に応じた原子力エネルギーへの社会的受容性、被災地におけるその他の非放射線問題（すなわち心理的及び社会的影響）への対策及び原子力エネルギーを促進するための効果的な方法 、健康への影響と放射線被ばくのリスクについての一般の理解を促進することが、すべての参加者により深く議論されました。

Q&Aセッションと議論の様子

講演者及び参加者全員による議論の後、各RP学会の代表者3名（Hiroko Yoshida博士（JHPS）、Yujiuan Niu博士（CSRP）、Kyo-Youn Kim博士（KARP））が参加者全員に祝辞を述べました。そのなかで特に、放射線防護の実践に関する社会的コンセンサスと安全文化を促進するために、若手RP専門家の役割と今後の若い専門家間の継続的な協力が強調されました。

祝辞を述べる様子

左から: Hiroko Yoshida博士 (JHPS), Yujuan Niu博士 (CSRP), Kyo-Youn Kim博士 (KARP)

このワークショップでは、60人以上の若手専門家がオンラインプラットフォームに参加し、約30人の韓国の科学者がオフサイトの会議室で参加しました。最後に、3つの学会間で構成された若手世代ネットワークは、地域的及び国際的な共同イベントが継続して組織され、COVID-19のパンデミックの収束後すぐに対面イベントが開催されることを期待しています。

リトアニア放射線防護学会

HTTP://WWW.LRSD.LT/

リトアニア放射線防護学会（LRSD）は、今年で設立20周年を迎えました。これは比較的短い期間ではありますが、リトアニアが国家として生まれ変わって間もない頃の出来事であるため、この20年間は我々にとって非常に重要なものです。リトアニアが1990年に独立を回復した後、人々と環境のための独立した放射線防護基盤（法的枠組み、規制当局、放射線防護専門家の育成システム、技術支援組織など）を構築することが重要になりました。これは、政治家や放射線安全担当者のみならず、人々や環境の放射線防護に関わる多くの専門家の協力のもと行われました。

リトアニアの放射線防護法の規定を施行するために、リトアニアの放射線防護規制当局である放射線防護センターが1997年に設立され、当時、同センターにはリトアニアで最も多くの放射線防護の専門家が所属していました。その中には、環境保護、物理学、植物学、地質学などの分野で活躍する専門家もおり、彼らはリトアニアの大学、市民保護や国境警備、食品や獣医の機関など、さまざまな分野で活躍していました。リトアニアの専門家は、北欧放射線防護学会のイベントに招待されたり、リトアニアが独立を回復した後は、国際原子力機関（IAEA）の活動に参加したり、さまざまな分野で放射線防護に取り組んでいる他国の専門家と協力したりする機会もありました。また、医療、原子力、研修、サイエンス、行政機関など幅広い分野で放射線防護に取り組んでいる各国の専門家と協力する機会も得ることができました。

LRSDの役員

ネリンガー クロニア海に面したリトアニアの素晴らしい観光地

（www.kopos.lt から転載した写真）

リトアニア放射線防護学会

異なる機関で働く放射線防護の専門家をまとめるために、また北欧放射線防護学会の経験に基づいて、2001年に放射線防護センターはすべての潜在的な利害関係者を招き、専門家集団を設立する必要性について議論し、それが後にLRSDとなりました。LRSDを設立した主な目的は、リトアニア国内における放射線防護の専門家の間、およびリトアニアと他国の放射線防護専門家との間で効果的な協力関係を構築することでした。招待された参加者全員がこのアイデアを満場一致で支持し、今日、LRSDは分野や職業の異なる87人の放射線専門家をつなげていますが、全員が放射線安全の分野で優れた成果を上げたいという思いで一致しています。

LRPの主な目的は、メンバーが知識や経験を共有できるようにすること、国際的な経験を広めること、LRSDメンバーの倫理規定を作成すること、リトアニアの放射線防護基盤の構築に参加すること、他の公的機関や国の機関とコミュニケーションをとること、リトアニアの住民に情報を広めること、若者に放射線防護活動に参加してもらうことであった。そのため、LRSDは法律の起草やさまざまな放射線防護の側面に関する議論に参加したり、放射線に関連する問題に関してリトアニアの規制機関に勧告や意見を提供しています。また、ご想像のとおり、LRSDの会議で最も多くの論文が発表されるのは、チェルノブイリ原発事故の記念日に開催される年次会議です。最後に、LRSDは、会員の皆様に重要な情報、放射線防護分野に関連するニュース、トレーニングコースなどを知っていただくために、継続的に活動していることをお伝えします。

リトアニア語で記述された最初の本として知られる
Catechism of Martynas Mažvydas、1547年に出版

私たちの国について言えば、リトアニアはヨーロッパで最も若い国の一つであると同時に、最も古い民族の一つでもあります。リトアニア語は地球上で最も古い言語の1つであり、その起源はヨーロッパ、さらにはアジアや中東の言語の基礎となったインド・ヨーロッパ原語にまで遡ります。例えば、サンスクリット語や古代ギリシャ語にもリトアニア語の特徴が見られ、リトアニア語はしばしば言語学者に研究され、インド・ヨーロッパ原語の復元に取り組む人々の重要な資料となっています。

リトアニア放射線防護学会

言語の話を除いて、リトアニアはバルト三国の一つで、ポーランド、ベラルーシ、ラトビア、そしてロシアのカリーニングラードと呼ばれる一部の地域と国境を接しています。国の中心部にはいくつかの丘がありますが、ほとんどは平坦で、農場と森林が混在しており、リトアニアの東の境界線を形成するバルト海に沿って海岸とビーチがあります。リトアニアは何世紀にもわたって大きくなったり小さくなったりを繰り返し、時には独立して存在できないときもありましたが、16世紀から17世紀にかけてポーランドと連合してポーランド・リトアニア連邦を形成し、最盛期には黒海にまで広がり、キエフ、スモレンスク、ブレストを含むヨーロッパ最大の国家の一つとなりました。

しかし、時間とともに、リトアニアの規模と影響力は再び縮小し、18世紀後半にはロシア帝国（程度の差こそあれ、プロイセンやハプスブルク帝国）に吸収されてしまいました。第一次世界大戦後にようやく独立を取り戻し、1990年3月11日により恒久的な独立国家として再び（短期間のうちに）成立しました。

我々の美しい森の一つ

リトアニアは今日では、NATOや欧州連合のほか、国連、世界貿易機関、欧州安全保障協力機構など、数多くの国際機関に加盟しています。また、世界的な気候変動パフォーマンス指数では、（スウェーデンに次いで）世界第5位にランクされていることを誇りに思っています。さらに、野生動物の生息数の回復や森林の再植林に取り組んでいること、リサイクルやその他の環境面での取り組みが飛躍的に進んでいることも誇りに思っています。

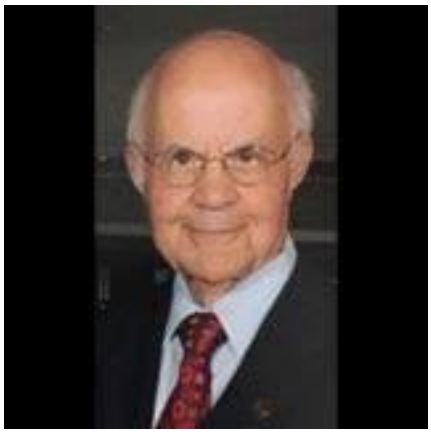
リトアニアやLRSDについてはまだまだ書きたいことがありますが、紙面の都合により省略させていただきます。ここでは、我々の国とLRSDを誇りに思うこと、そして皆様を歓迎し、ぜひお越しいただきたいことをお伝えいたします

エジプト放射線防護学会

MOHAMED GOMAA

私の同僚の多くがエジプトの国家活動を支援するために努力していることの認識は重要です。Galal El-sayad博士は、放射線物理・放射線防護エジプト国家ネットワーク（NNRP)を支援し、大きな評価を受けるに値する人物です。

El-sayad博士は、エジプト原子力庁（EAEA）の物理部門に長年勤務していました。スウェーデンのウプサラ大学で博士号を取得した後、ベータ研究所に勤務。その後、リビアの大学で教鞭をとり、最終的には米国に渡り、アマレインターナショナル社で計測機器開発に従事しました。エルシャド博士がアラブの科学界で人気が高かったのは、その知識と技術だけでなく、アラビア語を話し、困っている人にはいつでもアドバイスをしてくれるからです。彼は、複数の研究所でガンマ線スペクトロメータの開発を支援し、放射線測定や線量測定機器の入手を手助けしました。



Galal El-sayad博士

El-sayad博士は、NNRPだけでなく、2021年3月に（アスワンとルクソールを結ぶナイルボートの上で）最後の対面会議を開催したエジプト核物理学会（ENPA）や、2020年2月にCOVID-19が広がる直前に対面会議を開催したエジプト核科学・応用学会（ESNSA）など、他のエジプトの学会も長年にわたって支援してきました。また、彼は2018年に開催された最新のNNRP会議や、過去に開催された会議も支援してきました。

米国での会社勤務に加え、El-sayad博士はウォーキングやバードウォッチングなどの活動を通して大いに人生を楽しんでいます。また、彼は優れた写真家でもあります。最近、アメリカ東部からカリフォルニアに引っ越してきました。私はEl-sayad博士の友人であることを誇りに思います。

Hussein Abou Lilea教授

私たちの活動を支えてくれたもう一人の友人、Hussein Abou Lilea教授は、残念ながら亡くなりました。彼はエジプトやアラブの大学で働く前の、EAEAの同僚でもありました。退職後は、Satco (Scientific & Technical Consultation Office)で計測器開発に従事していました。現在は息子のSamyが、計測エンジニアのAdel IMAM博士の助けを借りて会社を運営しています。私は故Abou Lilea教授とそのご家族と知り合えたことを誇りに思います。

最後に、Anas Elnaggar博士とそのご家族のご支援にも感謝しています。私の同僚であるAnas 博士は医師であり、医療機関の大学院やトレーニングコースで教鞭をとっていました。彼とは60年代半ばからの付き合いで、当時彼は放射線物理学と放射線生物学の修士号取得のために勉強しており、そのとき私はロンドン大学ミドルセックス病院医学部で中性子遮蔽の博士論文を完成させているところでした。

Elnaggar博士と私は、1982年に博士がサウジアラビアに赴任するまで、EAEAの放射線防護部門で一緒に働いていました。帰国後は、原子力安全と救急医療に関心を持っていました。1996年に我々はIRPA-6に出席するために一緒にウィーンに行きました。また、ESNSA誌やIRPA-6の会議の論文、NNRPP会議のプロシーディングスの編集など、コミュニティへの貢献も多くありました。2008年の彼の死は、彼の学生や共同研究者たちにとって悲しい知らせでした。

Anas Elnaggar博士

最近、Richard GriffithとWolfgang Weisが亡くなったことを知りました。80年代に一緒に働いていた人達は、国際的にも国内的にも、長年にわたって我々を支援してくれた我々の同僚のことを覚えています。

Mohamed Gomaa (起立中)
Samy Abou Lilea博士は右で Galal El-sayad博士と
議論中

放射線防護の実践に向けた課題検討会議

今年の2月、保健物理学会（HPS）は、米国保健物理アカデミー（AAHP）、米国医学物理学会（AAPM）、米国原子力学会（ANS）、放射線管理プログラム責任者会議（CRCPD）、カナダ放射線防護学会（CRPA）、米国放射線防護審議会（NCRP）、メキシコ放射線・線量測定学会（SMID）と共同で、国際放射線防護学会（IRPA）の北米会議を開催します。国際放射線防護学会（IRPA）の初の北米地域大会を、米国放射線防護測定委員会（NCRP）およびメキシコ放射線・線量測定学会（SMID）の協力を得て、ミズーリ州セントルイスでバーチャル及び現地で開催されます！素晴らしい宿泊施設、素晴らしい研究発表、美味しい食事と素晴らしい音楽を、北米中の放射線安全の仲間と一緒に楽しみましょう。一緒に知識を深め、直面している問題の解決策を見つけましょう。2021年10月15日まで論文を募集しています。人脈作りに励み、放射線防護の研究者との新しい出会いを大切にしてください。新しいつながりがいつ貴重な情報源になるかわかりません。典型的な保健物理学の活動以外の放射線安全に関するトピックについて学ぶ機会を大切にしてください。この会議に興味のある方は、出張計画を立て、セントルイスでの会議に参加してください！

詳細は会議のウェブサイトでご覧いただけます。10月15日のアブストラクト提出締め切りまでまだ時間があります。ここでは、いくつかのハイライトをご紹介します。

宿泊施設

北米会議の宿泊施設は、St.Louis Union Station Hotelになります。このホテルは1894年に建てられたユニオンステーションを含めており、ユニオンステーション水族館やセントルイス大観覧車と直結しています。また、スコットトレードセンター、ピーボディオペラハウス、ブッシュスタジアム、ゲートウェイアーチ、ルミエールプレイスカジノ、アメリカンドームからも数分の距離にあります。

ユニオンステーションホテルでは、全年齢向けの多くのアクティビティが用意されており、ご家族でホテルを離れることなくセントルイスを散策することができます。120,000平方フィートの大きさの水族館では、ミズーリ州の地元の淡水河川や水生動物について学べる機会を提供しています。250,000ガロンの海洋生息地では、様々な形や大きさのサメや、タコやクラゲなどの神秘的な深海生物を見ることができます。セントルイス大観覧車は、高さ200フィートの完全密閉の展望台で、セントルイスのスカイラインを一望することができます。また、ホテルと同じ建物内には、ユニオンステーションカルーセル、ミニゴルフ、ミラーメイズ、ロープスコースなどがあり、ご家族でお楽しみいただけます。

社交イベント

IRPAナイトアウト

2022年2月22日（火）の夜、Broadway Oyster Barにて、地元セントルイスの音楽とケイジャン料理をお楽しみいただけます。IRPAでは、参加者の皆様にリラックスして交流していただけるような会を開催します。チケットは後日購入可能で、往復の交通費も支給されます。ブロードウェイ・オイスター・バーの詳細については、同店のウェブサイトをご確認ください。また、事前にご予約いただいた方は限定メニューをご利用いただけます。お食事のご注文はチケットに含まれております。飲み物は会場でお買い求めいただけます。

ブルワリー

ビール好きの方は、セントルイスの地ビールに喜びを感じることでしょう。1852年にドイツ人移民によって建てられたアンハイザー・ブッシュの醸造所があります。醸造所のツアーを予約すると、19世紀にビールを運ぶために使われていたアンハイザー・ブッシュのクライズデール馬を実際に見ることができ、その過程でアンハイザー・ブッシュの製品を味わうことができます。車で10分の移動圏内には、シュラフライ、フォーハンズ、スクエアワン・ブルワリー＆ディスティラリー、アーバン・チェスナットなど、さまざまな種類のクラフトビールを楽しめる醸造所があります。

ゲートウェイ・アーチ

西部の玄関口として知られるゲートウェイ・アーチは、セントルイスを訪れた際に必ず行くべき建築上の偉業です。参加者同士でトラムに乗ってアーチの上まで行ったり、ゲートウェイ・アーチの下にある博物館を散策してはいかがでしょうか。チケットは早々に売り切れてしまうので、街に到着する前に必ずチケットを購入してください。